

第41回水の週間実施報告書



平成29年11月

水の週間実行委員会

第41回水の週間中央行事は、後援機関及び協賛団体の 皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

水循環政策本部 水の週間実行委員会	国土交通省	東京都
----------------------	-------	-----

後援機関

文部科学省 経済産業省 公益財団法人 日本科学技術振興財団	厚生労働省 環境省 日本放送協会	農林水産省 独立行政法人 水資源機構 一般社団法人 日本新聞協会
-------------------------------------	------------------------	--

協賛団体（五十音順）

公益財団法人 河川財団	一般財団法人 河川情報センター	一般社団法人 建設広報協会
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会	一般財団法人 国土技術研究センター	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター
一般財団法人 砂防フロンティア整備推進機構	一般財団法人 水源地環境センター	石油連盟
一般社団法人 セメント協会	一般社団法人 全国建設業協会	公益社団法人 全国建築物飲料水管理協会
一般財団法人 ダム技術センター	一般社団法人 ダム・堰施設技術協会	電気事業連合会
一般社団法人 日本埋立浚渫協会	一般社団法人 日本ガス協会	一般社団法人 日本橋梁建設協会
一般社団法人 日本経済団体連合会	一般社団法人 日本建設機械施工協会	一般社団法人 日本建設業連合会
一般財団法人 日本建設情報総合センター	一般社団法人 日本水道工業団体連合会	日本製紙連合会
一般社団法人 日本電機工業会	一般社団法人 日本ホテル協会	一般社団法人 日本林業土木連合協会
一般社団法人 日本レストラン工業会	公益財団法人 リバーフロント研究所	

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット	公益社団法人 日本水道協会	公益財団法人 利根川・荒川水源地域対策基金
一般財団法人 造水促進センター	全国簡易水道協議会	一般社団法人 日本治山治水協会
公益社団法人 日本下水道協会	公益社団法人 土木学会	公益社団法人 日本河川協会
一般財団法人 日本ダム協会	公益社団法人 農業農村工学会	一般社団法人 日本工業用水協会
独立行政法人 水資源機構	特定非営利活動法人 日本水フォーラム	

(目 次)

第 41 回「水の週間」の開催にあたり	3
第 41 回「水の週間」行事の概要	5
水の週間中央行事「水を考えるつどい」	6
水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	9
平成 29 年度水資源功績者表彰	16
第 39 回全日本中学生水の作文コンクール	18
一日事務所長体験	21
第 32 回水とのふれあいフォトコンテスト	23
水循環体験ツアー	27
上下流交流活動	28
国や地方公共団体等での実施状況	32
第 41 回水の週間新聞等報道状況	40
「水の週間」実施経過	42
水の週間実行委員会について	45

※表紙の写真は、第 32 回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「水模様Ⅱ」：田中和昭氏

※表紙のロゴマークは、平成 27 年に選定された「健全な水循環」に関するロゴマーク

「水の日」及び「水の週間」について

昭和 52 年 5 月 31 日
閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の月上旬が適当であるので、その初日である 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

水循環基本法（平成 26 年法律第 16 号）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

平成 26 年 7 月 1 日に水循環基本法が施行され、8 月 1 日は、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として、法律で定められた「水の日」となりました。

第 41 回「水の週間」の開催にあたり



水の週間実行委員会 虫明功臣 会長

挨拶に先立ちまして、この度の九州北部豪雨によってお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、九州北部だけでなく各地で豪雨被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

第 41 回目の「水の日」及び「水の週間」を迎え、本日ここに、「水を考えるつどい」を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず初めに、本年度の水の日・水の週間行事の開催にあたり、ここにご列席の皆様のご理解とご協力を賜りましたことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

昭和 52 年に「水の日」「水の週間」の取り組みが始まって今年で 40 年が経過いたしました。その間、我が国ではソフト・ハードの両面からなる様々な対策を講じた結果、水問題について相当程度の改善を進めることができました。しかしながら、ここ数年を振り返りましても毎年のように水災害が生じている状況にあります。

先月の九州北部豪雨による被害は記憶に新しいところですが、昨年 8 月に相次いで上陸した台風第 11 号、第 9 号、第 10 号による北海道・東北地方の被害、一昨年 9 月の関東・東北豪雨による鬼怒川破堤氾濫、その前年の広島市の豪雨による土砂災害など、水害というのは、人々の暮らしを根こそぎ破壊するものであり、引き続き被害を軽減する対策への努力が肝要です。

一方で、水不足、渇水についても、度々発生しています。本年の九州での水害の直前までは九州では渇水が懸念されておりましたし、昨年利根川水系では、取水制限日数が 79 日間と過去最長を記録しましたが、皮肉にも北海道と東北地方に大きな被害をもたらした 8 月末の台風第 9 号と第 10 号の雨が恵みとなって、上流ダム群の貯水量が回復して深刻な渇水被害に至りませんでした。我が国では、水害と渇水は背中合わせ、両方に備えなければならないことが再認識されます。

また、世界に目を向けてみますと、一昨年 9 月の第 70 回国連総会では「持続可能な発展目標：SDGs」として 17 の目標が決定され、その中で水に関連する項目として「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理の確保」や「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策」などが選定されています。気候変動に関しては、昨今、国際社会において意見の相違が見られていますが、実際に毎年災害が頻発している我が国としては、着実に、より災害に強い社会の構築を目指すことが重要です。また、本年 12 月には、ミャンマーにおいて第 3 回アジア・太平洋水サミットが開催され、アジ

ア・太平洋地域における水問題の改善のための具体的な取り組みが議論される予定となっています。

このような状況を踏まえ、本年の「水の日」「水の週間」においては、健全な水循環の重要性、水資源の有限性、水資源開発・管理の重要性、水の恵みと脅威について、国民の皆様に広く理解と関心を深めていただき、今後水に関する防災や減災、持続可能な水利用の確保、さらには世界の水問題の改善、水インフラ整備の国際的展開、並びに我が国の今後の技術開発等といった取り組みにもつなげていけるよう、水循環政策本部、関係府省や都道府県等と連携し、全国で様々な取り組みを積極的に展開して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に、これから表彰されます、「全日本中学生水の作文コンクール」において優秀な成績を収められた方々に対して心からお祝い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

平成29年 8月 1日

水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

第41回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
水の週間中央行事	<p>1. 水を考えるつどい 日時:平成29年8月1日(火) 14:00～17:00 場所:イイノホール 内容: ①主催者挨拶 ②第39回全日本中学生水の作文コンクール表彰式 ③上記作文コンクール最優秀賞受賞者による作文朗読 ④基調講演(熊本市長 大西一史) ⑤パネルディスカッション(大西一史、黒川純一良、富永晃宏、中村玄正、吉原祥子)</p> <p>2. 水のワークショップ・展示会 日時:平成29年8月15日(火)～17日(木) 10:00～17:00 場所:東京国際フォーラム(ガラス棟G701会議室) 内容:「水のハッピーデー～水について学ぼう!～」をテーマに、小学生の親子を対象として、水にまつわる様々なワークショップやパネル展示を実施。</p>	<p>主催:水循環政策本部 国土交通省 東京都 実行委員会(注)</p> <p>後援:文部科学省、厚生労働省 農林水産省、経済産業省 環境省、(独)水資源機構、 (公財)日本科学技術振興財団、日本放送協会、 (一社)日本新聞協会</p>
平成29年度水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与。	主催:国土交通省
第39回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生を対象に水の作文コンクールを実施。 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して最優秀賞(内閣総理大臣賞)等を授与。	<p>主催:水循環政策本部、国土交通省、都道府県</p> <p>後援:文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、全日本中学校長会、(独)水資源機構、実行委員会</p>
一日事務所長体験	全日本中学生水の作文コンクール優秀賞以上の受賞者の内、希望する者について在住地近隣の関係機関の事務所等において一日事務所長体験を実施。	
第32回水とのふれあいフォトコンテスト	健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する写真作品(例:「生命を支え、育む水」、「ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの」、「くらしの中の水」、「歴史とともにある水の風景」)を募集し、フォトコンテストを実施。優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与。 また、若年層も含めてより広く作品を募集するSNS部門コンテストを実施。優秀作品に対して、各賞を授与。	<p>主催:実行委員会</p> <p>後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構</p>
水循環体験ツアー	実施日:平成29年7月20日(木) 場所:浦山ダム、利根大堰 内容:ライター、記者等を対象に、水循環の重要性について対外的に発信いただくことを目的に、施設見学会を実施。	主催:実行委員会
上下流交流活動	水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性についての啓発や、ダム水源地域の振興に資する上下流住民の連携に関する活動を行う団体等に対し、助成を実施。	主催:上下流住民の交流を促進する活動を行う市民団体、その他の団体
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに(独)水資源機構等において実施。	主催:都道府県、(独)水資源機構ほか
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しを実施 ・ポスターの配布・掲示 	

(注)「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

水の週間中央行事「水を考えるつどい」



平成 29 年 8 月 1 日 (火)、イイノホール (東京都千代田区) において、「水を考えるつどい」(主催：水循環政策本部、国土交通省、東京都、水の週間実行委員会) が開催され、およそ 450 名の方々にご来場いただきました。

主催者側から、石井啓一国土交通大臣・水循環政策担当大臣、佐藤伸朗東京都都市整備局理事及び虫明功臣水の週間実行委員会会長が挨拶し、その後、「第 39 回全日本中学生水の作文コンクール」の表彰式、最優秀賞 (内閣総理大臣賞) に選ばれた岡部利穂さんによる受賞作品の朗読披露が行われ、平成 28 年に発生した熊本地震をきっかけに水に対する自らの心境の変化について語られました。

休憩を挟んで、大西一史熊本市長による基調講演と、その後、大西市長に加えて、東京財団の吉原祥子研究員、「流域マネジメント」の先進地区である福島県、岡崎市、熊本地域のそれぞれの地域を代表して、NPO 法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議の中村玄正理事長、岡崎市水循環推進協議会の富永晃宏会長、水循環政策本部事務局の黒川純一良事務局長の 5 名により、パネルディスカッションを通じて、健全な水循環の重要性を PR し、盛況のうちに終了しました。

◆主催者挨拶



石井啓一国土交通大臣
・水循環政策担当大臣



佐藤伸朗東京都都市整備局理事



虫明功臣水の週間実行委員会会長

◆第39回全日本中学生水の作文コンクール最優秀作文披露



最優秀賞 岡部 利穂さん
(熊本県 熊本信愛女学院中学校1年)

◆第39回全日本中学生水の作文コンクール 受賞者集合写真



◆基調講演



大西一史熊本市長
「熊本地震から学んだこと～未来へつなぐ生命（いのち）の地下水～」

◆パネルディスカッション



左より、吉原祥子氏 黒川純一良氏



左より、大西一史氏 富永晃宏氏 中村玄正氏

◆入賞作品等の展示



第39回全日本中学生水の作文コンクール



第32回水とのふれあいフォトコンテスト

水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」

平成29年8月15日（火）から17日（木）までの3日間、東京国際フォーラム（東京都千代田区）が開催する「丸の内キッズジャンボリー2017」に参加し、この中で「水のワークショップ・展示会」を開催しました。

「水のハッピーデー～水について学ぼう！～」をテーマに、小学生の親子を対象として、今年も多くの組織、団体により、水にまつわるワークショップ形式の催し並びにパネル展示及びブース出展が行われ、子供たちに水の大切さをより深く知っていただく機会としました。なお、開催期間中には、1,700名を超える方々にご来場いただきました。

〈丸の内キッズジャンボリーとは〉

2007年に東京国際フォーラムの開館10周年記念事業としてスタート。子供たちへの未来への夢を育む参加・体験型イベントは、丸の内の夏の風物詩として定着。参加した企業、団体、行政機関、NPO法人などは100を超える。2017年は延べ約11万1千人が参加。

◆展示会テーマ 「水のハッピーデー～水について学ぼう！～」

【ワークショップ】

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 「森林の働きとおいしい水」 | 【一般社団法人 日本治山治水協会】 |
| 「水道キャラバン2017 ～東京の水道を学ぼう～」 | 【東京都水道局】 |
| 「雨つぶになって、ぐるぐる巡る旅をしよう！」 | 【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】 |
| 「親子で学ぶ防災教室 自然災害から身を守ろう」 | 【特定非営利活動法人 気象キャスターネットワーク】 |
| 「いのち育む農業用水」 | 【公益社団法人 農業農村工学会／全国水土里ネット】 |
| 「下水道ってなんだろう？ ～みんないっしょにかんがえよう～」 | 【東京都下水道局】 |

【展示等出展団体】

- ・東京都水道局
- ・国土交通省水管理・国土保全局下水道部／東京都下水道局／GKP（下水道広報プラットフォーム）
- ・一般社団法人 ダム工学会／ダム工事総括管理技術者会
- ・公益社団法人 農業農村工学会／全国水土里ネット
- ・一般社団法人 日本治山治水協会
- ・国土交通省 関東地方整備局
- ・巧水（たくみ）スタイル推進チーム
- ・特定非営利活動法人 日本水フォーラム
- ・独立行政法人 水資源機構

「ワークショップ」



【一般社団法人 日本治山治水協会】
森林の働きとおいしい水

森林に降った雨はどこに流れていくのか、森林が育んだ水はなぜおいしいのかなどについて学習。また、3種類の森林の水（ミネラルウォーター）の試飲を行い、味の違いを体験。



【東京都水道局】
水道キャラバン 2017
～東京の水道を学ぼう～

東京都の管理する様々な水道施設を、映像を通じて見学。安全でおいしい水道水ができるまでの取り組みなどを実験も交えて学習。



【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】
雨つぶになって、ぐるぐる巡る
旅をしよう！

楽しく学べる環境学習教材「雨つぶぐるぐるすごろく」で、水がどこから来て、どこへ行くのかを学習。



【特定非営利活動法人

気象キャスターネットワーク】

親子で学ぶ防災教室 自然災害から
身を守ろう

大雨などの自然災害から身を守るには
どうすればいいか、テレビで活躍中の気
象キャスターが、クイズや実験を交えて、
親子で楽しく学習。



**【公益社団法人 農業農村工学会／全国
水土里ネット】**

いのち育む農業用水

※運営

東京大学水利環境工学研究室

東京農工大学水利環境保全学研究室

田んぼや畑にとって大切な農業用水の
役割について、大学生による出前授業、
ゲームやクイズを通じて学習。



【東京都下水道局】

下水道ってなんだろう？

～みんないっしょにかんがえよう～

「トイレットペーパー実験」、「沈でん
実験」、「雨水ます実験」の3つの実験を
通じて下水道の役割などについて学習。

「展 示 会」



【東京都水道局】

水道水の安全性及び安全確保の取り組みや水道水源林の働きについて、パネルやオゾン処理の実験装置等を用いて紹介。



【国土交通省水管理・国土保全局下水道部 ／東京都下水道局／GKP（下水道広報 プラットフォーム）】

下水道のしくみや役割、微生物などを紹介したパネル展示を実施。また、下水をきれいにするために重要な役割を持つ微生物を顕微鏡で観察。





**【一般社団法人 ダム工学会／ダム工事
総括管理技術者会】**

「本物・手作り・参加型」を基本に水力発電模型の実演やダムクイズなどを通して、来場者の疑問にダム博士が答えると共に、ダムへの正しい理解や知識についての啓発活動を実施。



**【公益社団法人 農業農村工学会／全国
水土里ネット】**

いのちを育む水の恵みや、農業を通じて育まれる文化や農村環境についてパネルで展示。また、水辺の生き物の展示やタブレット端末を活用した学習ゲームを実施。



【一般社団法人 日本治山治水協会】

森林が育む水について理解を深めてもらうため、森林の働き等をパネルで紹介。また、全国各地の森林（もり）の水（ペットボトル）の展示や各地の水を飲み比べる「利き水」を実施。



【国土交通省関東地方整備局】

国土交通省関東地方整備局が管理している河川やダムにおける最近の取り組みについて紹介。



【巧水(たくみ)スタイル推進チーム】

「巧水（たくみ）スタイル」とは、賢く水を使う社会ということ。普通に生活をする中でこんなにも簡単に水を賢く使うことができるのだということを紹介。



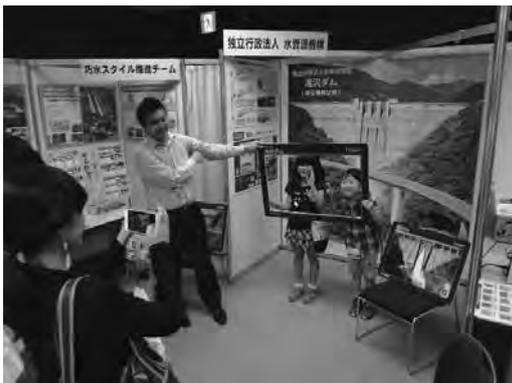
【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】

「打ち水やってみよう」をキーメッセージに展開する“打ち水大作戦 2017”をPRするパネル展示を実施。



【独立行政法人水資源機構】

ダム役割に関するパネルやジャンボダムカードの展示のほか、ダムカードフレームを使った記念撮影を実施。



平成 29 年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域の振興、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、水資源功績者として表彰されました。表彰式は平成 29 年 8 月 3 日（木）に国土交通省特別会議室において執り行われ、根本幸典国土交通大臣政務官から表彰状が授与されました。

[個人] 3名

受賞者	功績概要
長瀬 和雄 (神奈川県)	秦野盆地の地域水循環を解明し、市民の共有財産である地下水の質と量の保全に多大な功績を挙げた。
宗宮 孝生 (岐阜県)	合併後の揖斐川町長を 3 期、約 12 年務められ、その間、特に、徳山ダム建設事業に関して、地権者との合意形成や、山林公有地化事業の実現など、責任感の強さと正確な仕事ぶりは周囲から高評価を受けた。この徳山ダムの建設により揖斐川及びその支川の治水安全度が飛躍的に向上した。また、揖斐川、特に徳山ダム水源地域の環境保全等に献身的に尽力した。
樋口 信義 (宮崎県)	NPO 法人どんぐり 1000 年の森をつくる会の理事として、長年にわたり豊かな源流の森づくりを推進している。

[団体] 6 団体

受賞者	功績概要
江刺猿ヶ石土地改良区 (岩手県)	農業用水の安定供給による農業振興への寄与と、農業用水の多面的機能についての啓発活動等を実施している。
猪苗代町立翁島小学校 (福島県)	平成 13 年度より猪苗代湖を核とした水環境学習に取り組み、湖心・北岸・河川の水質調査、水生生物や植物等の観察調査を継続している。
特定非営利活動法人 甲斐駒清流懇話会 (山梨県)	20 年にわたり、ホテルの愛護・育成を通じて自然と人との共生の大切さについて普及啓発を図るとともに、河川清掃を通じて地域の環境美化に貢献している。

<p>佐賀市親林交流隊 ～ふじグリーンネット ワーク～ (佐賀県)</p>	<p>嘉瀬川ダムの水源地域及び流域などで森林の維持管理活動を地域住民等と協力して実施し、水源林の整備等に努めている。</p>
<p>株式会社テレビ熊本 (熊本県)</p>	<p>「水の国くまもと応援プロジェクト進行中」をキャッチフレーズに様々なイベントや番組を通して水保全活動を実施している。</p>
<p>株式会社スミ設備 (愛知県)</p>	<p>平成19年から多くの水道関係団体等に呼びかけ、木曾川の源流で水源地域保全（植樹等）や地域振興に関する活動を積極的に取り組んでいる。</p>



第 39 回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「第 39 回全日本中学生水の作文コンクール」を開催し、本年は 357 校より総数 16,725 編の応募がありました。各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞 1 編、優秀賞 8 編及び入選 30 編（P20 参照）が選ばれました。表彰式は平成 29 年 8 月 1 日（火）にイイノホールで開催された「水を考えるつどい」にて執り行われ、最優秀賞受賞者に石井啓一国土交通大臣・水循環政策担当大臣から、優秀賞の各受賞者に馬場成志厚生労働大臣政務官、矢倉克夫農林水産大臣政務官、大串正樹経済産業大臣政務官、井林辰憲環境大臣政務官ほか、関係機関代表者などから賞状が授与されました。

(1) 主催等

主 催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県

後 援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、
水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構、全日本中学校長会

(2) 募集要領

①テ ー マ：「水について考える」（題名は自由）

②原 稿：400 字詰原稿用紙 4 枚以内

(3) 中央審査会審査委員 ※ 50 音順、敬称略 審査当時

枝村 晶子 （全日本中学校長会編集部部長）

小川 祥直 （経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ地域産業基盤整備課長：
内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

工藤 啓 （独立行政法人水資源機構理事）

塩屋 俊一 （農林水産省農村振興局整備部水資源課長：
内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

須磨 佳津江（キャスター）

玉野井 晃 （公益社団法人 日本水道協会調査部長）

長崎 宏子 （スポーツコンサルタント）

宮崎 正信 （厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部水道課長：
内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

山本 景一 （国土交通省大臣官房審議官：内閣官房水循環政策本部事務局審議官）

渡邊 康正 （環境省水・大気環境局水環境課長：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

※ 受賞者集合写真については P7 をご覧ください。

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

水への想いが変わった日

熊本県 熊本信愛女学院中学校 一年 岡部 利穂

水は私にとって幸せな思い出を作ってくれるのに欠かせないものでした。幼い時から大好きだった水遊び。学校のプール、江津湖での水遊び、そして一番長い時間遊んだ家でのプール遊び。早起きをして水を張り、暗くなるまで水に入ってるだけで嬉しかったです。おやつはきまってる作りのかき氷。本当に格別な味でした。幼かった私にとっての水とは、日常を彩るなくてはならないものでした。パチャッと楽しそうに水の立てる音、太陽に照らされてキラキラした水の顔、今も鮮明に残っている水の記憶です。

しかし、私にたくさんさんの幸福な時間をくれた水への想いが、一年前に起きた熊本地震で大きく変わりました。昨日まで当たり前に使っていた水が、じゃ口をひねっても一滴もでないのです。飲み水もなく、食事も作れずお風呂にも入れずトイレも流せません。余震が続く中、経験したことがない水のない不自由さを感じ、怖くて辛い毎日でした。

街中のコンビニや自動販売機に水がないので、私は給水車に父と並びました。長い行列を待ち、やっともらえた水を次はマンション十二階まで、階段で運ばなくてはなりません。10Lの水をヘトヘトになりながら運んでも、トイレや飲み水等に使うと、すぐになくなります。数日間水を確保するためにこれを繰り返し、何度か涙がでそうになりました。

しかし今振り返ると、今まで水について考えなすぎた自分に気づき、水の大切さに身を持って感じた貴重な時間でした。

ある時、家に保管されていた市の上下水道便りが目にとまりました。それは熊本地震より前に配布されたもので、上下水道局は災害に備え、上下水道の機能を確保できるよう耐震化等の災害対策に取り組んでいることを紹介した内容でした。例えば地震時に水道管が折れないよう曲がる水道管の整備をしたり、水を貯めるタンクをコンクリートで造ったり、下水道を強くするために接続の工夫をしたり、様々な対策を進めていた

のです。また災害対策用の貯水施設や応急給水の準備もすすめ、熊本市民七十四万人の一週間分の水道水の確保を目標にしていました。また、災害を想定した訓練も下水道局の方々は行っていたそうです。私は、この様な施設があることも訓練も知らず、本当に自分が恥ずかしくなりました。

よく考えると水がなければ生きていけないということは古代から現代まで同じなのです。災害がおきなくても酷暑や雨不足でおきる水不足問題、水源地の環境問題、日々身近な問題は新聞やニュースで伝えられてきたはずです。今までの私はなんて無知で無関心だったのだろうと反省をしました。

地震から一年、復旧復興など地震関連のニュースや情報が伝えられ、それぞれが地震前の生活に戻ろうと努力をしています。私の家でも水道が復旧してから家族で話し合い、節水と水の備えを始めました。飲み水、洗顔、歯磨き、入浴、トイレでの水の使いすぎに気をつけ、ながら使いをしない、水タンクの備蓄とお風呂の残り湯はためるようにし、個々でやれることを今も続けています。

震災後の私は、水への想いが確実に変わりました。幼い時の水にまつわる良い思い出は前よりもっと大切に思え、日常生活では、水なしでは作れないお米がとても大事に思え、生産者の人、運搬する人、売る人、関わったみんなに感謝を伝えたい気持ちになりました。

じゃ口からでる水は小さい時に見ていた水の顔より今のほうがずっと輝いてみえます。

水のない暮らしの大変さを経験した私だからこそ、わかることがあり、この先できることがたくさんあると思います。暮らしの中で水を大切に想い、そしてこの気持ちを今後も持ち続け、たくさんの人につないでいかなければいけないと、今心に強く思っています。

第39回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	ふりがな氏名	学年	学校名
最優秀賞 内閣総理大臣賞	熊本県	水への想いが変わった日	おかべりほ穂 岡部 利穂	1	熊本信愛女学院中学校
優秀賞 厚生労働大臣賞	埼玉県	日本の水のすばらしさ	あおきけいせい 青木 奎晟	2	熊谷市立富士見中学校
優秀賞 農林水産大臣賞	鹿児島県	父祖の思いを受け継ぐ	たなかけいと 田中 恵仁	2	志布志市立有明中学校
優秀賞 経済産業大臣賞	千葉県	「水への思い」	おだゆうみ 小田 優海	2	八千代松陰中学校
優秀賞 国土交通大臣賞	京都府	水の守り人	かわいのの 河井 紀乃	3	京都市立西京高等学校附属中学校
優秀賞 環境大臣賞	滋賀県	「生徒会の手で琵琶湖をよみがえらせた」	じんやますずば 陣山 涼葉	3	大津市立日吉中学校
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	岡山県	水を支える二つの力	いなだちほる 稲田 知陽	2	岡山市立吉備中学校
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	香川県	「毎日が節水週間」	こうぢりゆうのすけ 河瀬 龍之丞	2	高松市立龍雲中学校
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	北海道	大切な水を守る	いけがめれん 池亀 廉	3	長沼町立長沼中学校
入選（30編）	青森県	みんなに愛される水	さとうみまろ 佐藤 実真瑠	1	新郷村立野沢中学校
	青森県	山の恵み	おくだかなみ 岡田 香那美	2	新郷村立野沢中学校
	岩手県	川に命を繋いで	うめむらことお 梅村 琴音	2	岩手県立一関第一高等学校附属中学校
	宮城県	感動を後世へと伝える	あべひな 阿部 陽菜	3	女川町立女川中学校
	宮城県	未来への課題	ふくはらしの 福原 史乃	3	大崎市立古川西中学校
	茨城県	勤行川の水	すぎやまさえ 杉山 咲衣	2	筑西市立下館中学校
	栃木県	「水は山の幸、人の幸」	たかほしまりん 高橋 菜鈴	3	佐野日本大学中等教育学校
	栃木県	水鏡と私	ほしゆりか 星 優莉香	1	下野市立南河内第二中学校
	群馬県	土地と心を潤す川の水	たかいともひろ 高井 智大	3	群馬大学教育学部附属中学校
	東京都	水資源の行く末	おおむらきゆうら 大村 咲由良	1	東京都立桜修館中等教育学校
	神奈川県	人々の知恵と努力	さかたにかほ 酒谷 香帆	2	カリタス女子中学校
	神奈川県	水不足の国、日本	いたばしあやか 板橋 彩歌	1	洗足学園中学校
	石川県	水を知る	よしきめぐる 吉崎 萌流	3	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属中学校
	岐阜県	技術提供という思いやり	ねざきまゆ 根崎 真由	2	多治見西高等学校附属中学校
	静岡県	未来へつなげる私たちの水	つちやこころ 土屋 ころろ	2	不二聖心女子学院中学校
	愛知県	雨乞いの精神を忘れずに	なかおなつみ 中尾 捺美	2	豊橋市立南部中学校
	愛知県	健やかな森が育む水資源	すずきかいと 鈴木 海斗	3	岡崎市立新香山中学校
	京都府	農村民泊で学んだおいしい野菜の秘密	いのうえまい 井上 舞	3	龍谷大学附属平安中学校
	大阪府	「ゴロン、パニ、デン」を心に	ふじやまさゆり 藤山 さゆり	1	大阪教育大学附属池田中学校
	大阪府	父の仕事と未来の水	やのななみ 矢野 七海	1	高槻中学校
	島根県	命とつながる水と生きる	いしくらかなめ 石倉 要	1	松江市立八雲中学校
	広島県	魂の水	みよしかずま 三好 司真	1	広島城北中学校
	広島県	見えない水への感謝	おおむらふうか 大村 風歌	2	比治山女子中学校
	徳島県	水の大切さ	のたあすか 野田 亜寿佳	3	上勝町立上勝中学校
	徳島県	僕の決意	かさえあきら 笠江 彰	1	阿南市立那賀川中学校
	愛媛県	今ある資源を守りたい	つばうちななみ 坪内 七海	2	西条市立西条南中学校
	福岡県	「筑後川」から地球の未来へ	しもがわふうか 下川 楓翔	3	福岡教育大学附属久留米中学校
	沖縄県	水が育む島の命	たぶらすすずか 田淵 鈴夏	3	石垣市立石垣中学校
	沖縄県	水を守り、伝える	さわだまなほ 佐和田 愛羽	3	多良間村立多良間中学校
	アメリカ合衆国	水と電力	カルボスキー カルボスキー けい慶	2	ワシントン日本語学校

一日事務所長体験

全日本中学生水の作文コンクールの優秀賞以上の受賞者を在住地近隣の関係機関の事務所等に招待し、一日事務所長体験として職場体験が実施されました。本年度は、優秀賞以上の受賞者9名全員が以下のとおり一日事務所長を体験しました（実施日順）。

- 受賞者名 大津市立日吉中学校
陣山 涼葉さん
優秀賞（環境大臣賞）
実施日 平成29年8月10日（木）
実施事務所 国土交通省近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所



- 受賞者名 熊本信愛女学院中学校
岡部 利穂さん
最優秀賞（内閣総理大臣賞）
実施日 平成29年8月21日（月）
実施事務所 国土交通省九州地方整備局
熊本河川国道事務所



- 受賞者名 京都市立西京高等学校附属中学校
河井 紀乃さん
優秀賞（国土交通大臣賞）
実施日 平成29年8月21日（月）
実施事務所 独立行政法人水資源機構
琵琶湖開発総合管理所



- 受賞者名 志布志市立有明中学校
田中 恵仁さん
優秀賞（農林水産大臣賞）
実施日 平成29年8月23日（水）
実施事務所 国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所



○受賞者名 岡山市立吉備中学校
いなだ ちほる
稲田 知陽さん
優秀賞（水の週間実行委員会会長賞）
実施日 平成 29 年 8 月 23 日（水）
実施事務所 国土交通省中国地方整備局
岡山河川事務所



○受賞者名 熊谷市立富士見中学校
あおき けいせい
青木 奎晟さん
優秀賞（厚生労働大臣賞）
実施日 平成 29 年 8 月 25 日（金）
実施事務所 国土交通省関東地方整備局
荒川上流河川事務所



○受賞者名 高松市立龍雲中学校
こうぶち りゅうのすけ
河瀬 龍之丞さん
優秀賞（水資源機構理事長賞）
実施日 平成 29 年 8 月 25 日（金）
実施事務所 国土交通省四国地方整備局
吉野川ダム統合管理事務所



○受賞者名 八千代松陰中学校
おだ ゆうみ
小田 優海さん
優秀賞（経済産業大臣賞）
実施日 平成 29 年 8 月 29 日（火）
実施事務所 国土交通省関東地方整備局
利根川下流河川事務所



○受賞者名 長沼町立長沼中学校
いげがめ れん
池亀 廉さん
優秀賞（全日本中学校長会会長賞）
実施日 平成 29 年 9 月 28 日（木）
実施事務所 国土交通省北海道開発局
千歳川河川事務所



第32回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会
後援 国土交通省、東京都、独立行政法人水資源機構
協賛 富士フイルムイメージングシステムズ（株）

募集作品 健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する作品

例) ・生命を支え、育む水 ・くらしの中の水
・ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの
・歴史とともにある水の風景 など

○カラープリント部門

募集期間 平成29年4月27日（木）～6月16日（金）

応募状況 総計 2,177点

審査員（敬称略 審査当時）

中谷 吉隆（写真家） 山本 景一（国土交通省大臣官房審議官）
内田 勲（写真家） 邊見 隆士（東京都都市整備局長）
筑紫 ゆうな（切り絵作家） 牧 慎太郎（水の週間実行委員会運営委員長）

○SNS部門

募集期間 平成29年7月1日（土）～8月31日（木）

応募状況 総計 650点

審査員（敬称略 審査当時）

詩 歩（Shiho）（「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサー）
ひきたよしあき（株式会社博報堂クリエイティブプロデューサー）
山本 景一（国土交通省大臣官房審議官）



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

【カラープリント部門受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

○ 国土交通大臣賞

たなか かずあき
田中 和昭（福井県）

画題：「水模様Ⅱ」



〔優秀賞〕 3名

○ 東京都知事賞

たなか かずお
田中 和夫（神奈川県）

画題：「噴水と遊ぶ」



○ 水の週間実行委員会会長賞

しばさき しずお
芝崎 静雄（愛媛県）

画題：「激流」



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

たかはし なおみ (群馬県)
高橋 尚美

画題：「冬のベール」



〔特別賞〕 1名

○ 審査員特別賞

うすい ゆたか (岡山県)
臼井 寛

画題：「メダカ空を飛ぶ」



〔特選〕 5名

「桜花爛漫」	てらお 寺尾	みきお 幹男	(滋賀県)
「冬幻夜」	すずき 鈴木	かつや 克哉	(神奈川県)
「ハンモック」	いえもり 家森	ただお 忠雄	(宮崎県)
「月夜のスノーピー滝」	しらやま 白山	けんえつ 健悦	(青森県)
「水面で運をためず」	たかはし 高橋	かずよし 一吉	(兵庫県)

〔入選〕 10名

「都心の天使」	たるみ 垂	ひでお 秀夫	(東京都)	「穏やかなひととき」	よしの 吉野	ひろあき 宏映	(埼玉県)
「生命の営み」	こみなみ 小南	のぶひろ 宣広	(岡山県)	「春うらら」	やまわき 山脇	ひでゆき 英行	(兵庫県)
「分水嶺」	たまおき 玉置	よしむね 良宗	(愛知県)	「分水の知恵」	なかつじ 中辻	かずこ 和子	(岐阜県)
「初夏の噴水」	こうぐち 河口	つよし 毅	(岡山県)	「宵明かりに遊ぶ」	かたやま 片山	みさお 操	(岡山県)
「雪のダム湖」	ひる 比留	きちひろ 木親弘	(愛知県)	「誓い」	いげき 井関	すぐる 俊	(愛媛県)

【SNS 部門受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

miya3450



〔特別賞〕 2名

ニヤカムラ マロニー



星 美由起



水循環体験ツアー

「水の日」を目前に控えた7月20日（木）、水循環の重要性について、対外的に発信していただくことを目的として、ライター、ダム愛好家、タレント、記者の方々に参加していただくバスツアーを実施しました。最初の訪問先の浦山ダム（埼玉県秩父市）では、ダム堤体内部の監査廊を見学した他、管理手法等について説明を受けました。次の訪問先の利根大堰（埼玉県行田市）では、高度経済成長と急激な人口流入による東京の深刻な水不足を解消するために、利根川の水を荒川に流し、都市部の水を確保する利根導水路事業が実施されたことについての説明や、太古から現代まで続く人々の水との関いの歴史に関する講演が実施されました。

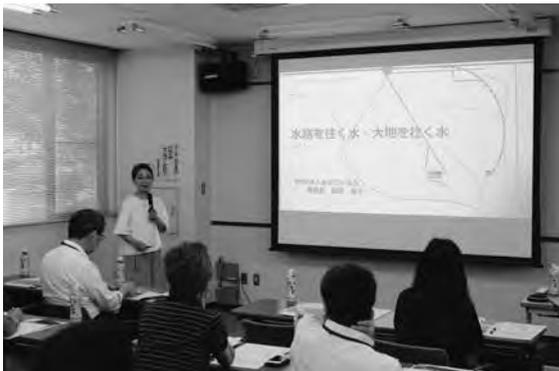
ツアーを通じて、参加者の方からは「先人たちと現代の人々の努力によって水の恵みを利用できていることがわかった」など、水と人との関わりについての気づきの声がありました。参加者の方は、それぞれ思い思いにブログ、SNS、新聞で情報発信をされ、中には、ツアー催行中にリアルタイムに発信される方もいらっしゃいました。



浦山ダム内部を見学



庁舎屋上より利根大堰を見学



認定NPO法人水のフォーラム 藤原梯子理事長
による、流域の歴史に関する講演



見学を終えて

上下流交流活動

水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発、健全な水循環の重要性について、国民の間に広く理解と関心を深めるため、ダム水源地域等の振興等に資する活動を行う団体に対し、助成に関する公募を行い、選考の上、以下に掲げる29件（30団体）に助成を実施しました。

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
1	北海土地改良区	第12回北海幹線水路ウォーキング2017 北海幹線水路が疏水百選に選定されたことを契機に始めたウォーキングイベント。農業用水利施設の機能、農業農村地域の多面的機能を一般の人たちに幅広く知ってもらう目的で実施。	H29. 7. 30(日) 北海道美唄市 (北海幹線水路 周辺)
2	岩木川環境公共ネットワーク協議会	岩木川河川公園交流会・第5回水資源環境フォーラム 水資源の重要性などについて、岩木川流域の板柳町とつがる市の市民を中心に津軽一円からの参加者を得て交流事業を実施。	H29. 8. 2(水) 青森県北津軽郡板柳町 (板柳町岩木川河川敷公園、板柳町多目的ホール「あぶる」)
3	夏井川流域の会	夏井川流域住民主体の交流促進事業 夏井川流域各地で住民が分担して水質調査を行う他、上下流小学校児童が、情報の交換や水源地視察等を通じた上下流交流を実施。	H29. 6. 4(日)ほか 福島県田村市ほか
4	NPO 法人 足尾に緑を育てる会	足尾体験植樹と、くまのお話会 足尾の山に自らの手で植樹して、森の再生を実体験する植樹活動のほか、足尾の動植物や森の現状への理解を深めるため、動物写真家による講演活動を実施。	H29. 5. 7(日)ほか 栃木県日光市足尾町 (九蔵口植樹地ほか)
5	墨田区太鼓連盟	「草木湖まつり」における上下流交流 草木ダムの竣工を契機とした、水源地域と東京都の交流の一環として、草木ダム受益地域（東京都）の和太鼓演奏団体による、「草木湖まつり」における吾妻太鼓の演奏。	H29. 8. 15(火) 群馬県みどり市 (東町運動公園)
6	NPO 法人 森びとプロジェクト委員会	足尾松木沢生態観察 植生、昆虫、爬虫類等の四季の観察を通じて、生物社会と人間社会のつながりを学ぶ目的で、足尾町の松木川の水生生物等の調査を実施。	H29. 6. 24(土)ほか 栃木県日光市足尾町
7	利根川源流まつり実行委員会	利根川源流まつり 利根川上流域の住民と中下流域の住民が交流する場を創出し、利根川源流域の自然を五感で感じ触れていただき水源地域の保全と水辺環境を考えていただく契機として実施。	H29. 7. 23(日) 群馬県利根郡みなかみ町 (奈良俣ダム周辺)
8	合唱組曲「利根川源流讃歌」発表・実行委員会	合唱組曲「利根川源流讃歌」第17回歌う会 群馬県及び関東近県の利根川流域上下流の人々の交流を目的として、「利根川源流讃歌（利根川源流域で生きる人々や自然を称える12曲で構成）」を歌う会を実施。	H29. 7. 1(土) 群馬県利根郡みなかみ町 (みなかみ町カルチャーセンター)
9	NPO 法人 水のフォーラム	「ダム」を見に、奥利根に行こう 利根川・荒川下流域の東京都や埼玉県さいたま市在住者の参加を募り、ダムへの理解を深め、「流域」という概念を身につけるため、ダム見学や水源地の方との交流を実施。	H29. 8. 26(土)～27(日) 群馬県利根郡みなかみ町ほか (矢木沢ダム、奈良俣ダムほか)

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
10	小鹿野町・川越市 いのちの水を訪 ねる上下流交流 事業実行委員会	小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる上下流交流事業 小鹿野町及び川越市在住の小学生及びその保護者による、県営合角ダムの見学、河川清掃、利き水体験、魚のつかみ取りその他を実施。	H29. 8. 26(土) 埼玉県秩父郡小鹿野町 (合角ダムほか)
11	神流川ビジョン 推進協議会	神流湖ゴミゼロ活動 群馬県と埼玉県企業の企業や NPO 法人等の他、水源地域のカーヌー愛好家や地元の漁協・住民等が参加し、神流湖(下久保ダム湖)周辺の美化活動と上下流交流を実施。	H29. 5. 28(日) 埼玉県児玉郡神川町 (下久保ダム)
12	越谷・松伏 水道企業団	水の日記念イベント 親子水道教室 水の役割や性質、水を取り巻く環境の大切さを学び、水道への理解を深めることを目的として、ダムや川の博物館の見学を実施。	H29. 8. 1(火) 埼玉県秩父市ほか (浦山ダム、埼玉県立 川の博物館)
13	千葉県上下流 交流事業 実行委員会	ハッ場ダム上下流交流事業「水の大使 2017」 千葉県の水源となるハッ場ダムの建設に伴い移転した小学校を訪れ、地元の児童とのふれあいを通じて、水の大切さを学ぶ交流事業を実施。	H29. 8. 8(火)～10(木) 群馬県吾妻郡長野原町 (長野原町立第一小学 校ほか)
14	一般社団法人 東京都ボート協会	第2回東日本夏季競漕大会 東日本を中心としたボート愛好者、所属団体の参加による、戸田漕艇場における競漕大会。会場では、イケチョウ貝を活用した水の浄化に関する説明コーナーを設置。	H29. 7. 23(日) 埼玉県戸田市 (戸田オリンピックボ ートコース)
15	NPO 法人 荒川クリーンエイ ドフォーラム	荒川沿川を川ごみ清掃ネットワーク! 「川ごみ」を切り口に、埼玉県秩父市から東京都江東区までの荒川沿川市民を中心に参加者を募り、調べるごみ拾い活動を実施。	H29. 6. 18(日)ほか 東京都板橋区ほか (荒川河川敷ほか)
16	九頭竜川下流域 農業用水再編 推進協議会	おさんぽマルシェ パイプラインの上部空間を利用した「せせらぎ水路公園」を利用し、農業水利施設や地域の農業を知ってもらい地域の活性化を図ることを目的として青空広場を実施。	H29. 10. 8(日) 福井県吉田郡永平寺町 (せせらぎ水路公園)
17	NPO 法人 木曾川・水の始発 駅	第22回サマーキャンプ in KISOGAWA 木曾川流域上～下流(名古屋市、清洲市、北名古屋市、日進市、木祖村等)在住の小学生の参加を得て、木曾川水源地域(木祖村)で、水のめぐみや水を育む森林の大切さを学ぶサマーキャンプを実施。	H29. 8. 12(土)～14(月) 長野県木曾郡木祖村ほ か (味噌川ダム周辺)
18	佐久市	「水の日・水の週間」イベント 「水フェス in 佐久 2017」と題して、水に関するブース展示や一斉打ち水を実施したほか、佐久水道企業団及び佐久圏域水道水質検査協議会が管理する施設の見学会を実施。	H29. 8. 1(火)ほか 長野県佐久市 (市民交流ひろば ほか)
19	生命の水と森の 活動センター 協議会	冠山探訪会 森林保護・育成の意識向上を図ることを目的として岐阜県西濃地区を中心とした中部圏の小学生とその保護者並びに揖斐川町及び近隣市町村在住者を得て、揖斐川源流の冠山周辺への探訪を実施。	H29. 7. 23(日) 岐阜県揖斐郡揖斐川町 (冠山周辺)

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
20	愛知用水 土地改良区	愛知用水水源交流事業 愛知県愛知郡東郷町在住の愛知用水土地改良区関係者を対象として、水源地域（王滝村）での育樹作業並びに水源地域の現状及び今後の発展等に係る意見交換を実施。	H29. 7. 7(金)～8(土) 長野県木曾郡王滝村 (牧尾ダム周辺)
21	豊川総合用水 土地改良区	平成 29 年度豊川用水上下流交流事業 豊川用水の水源地である愛知県北設楽郡東栄町在住の小学生とその保護者を対象に、上流域で貯えられた水が、下流域でどのように有効利用されているのかについて学ぶ豊川用水施設見学を実施。	H29. 7. 28(金) 愛知県豊橋市及び田原市 (豊川用水施設周辺)
22	NPO 法人 地域と自然	インドア野鳥観察（ぬり絵と歌で覚える野鳥・名張川編） 淀川流域の市民が参加し、木津川上流域の河川、山間部、農村部に生息する野鳥をインドアで観察し、ぬり絵や歌を通じて楽しく学ぶ会を実施。	H29. 9. 23(土) 三重県名張市 (名張川新町テラス ほか)
23	余呉・姫里子ども 交流会実行委員会 及び 姫里地域青少年 育成会	余呉・姫里子ども交流交歓会 滋賀県長浜市余呉町及び大阪市西淀川区姫里地域の小学生の参加を得て、レクリエーション活動を通じた交流を行うほか、水資源機構職員による水に関する話を通じた学習等を実施。	H29. 7. 28(金)～29(土) 滋賀県長浜市 (余呉文化ホール ほか)
24	天若湖アート プロジェクト 実行委員会	天若湖アートプロジェクト「あかりがつなぐ記憶」 日吉ダム建設時に水没移転した天若集落各戸の位置に LED 照明を浮かべ、かつての夜景を再現するイベントやアート展示を実施。下流域(大阪・京都)や地元から多数の見学者。	H29. 7. 2(日) 京都府南丹市 (日吉ダム周辺)
25	森林ボランティア フォレストアージュ	天ヶ瀬森林公園の森林づくりと天ヶ瀬ダム湖岸の森づくり 宇治市及び周辺の地域住民による天ヶ瀬森林公園の災害後の森づくりと同公園に自生する樹木の種子を採集して苗木に育て、天ヶ瀬ダム湖岸への植樹を実施。	H29. 6. 18(日) ほか 京都府宇治市 (天ヶ瀬森林公園 ほか)
26	NPO 法人 新町川を守る会	さめうら水源の森整備交流会 徳島県、香川県及び高知県嶺北地域住民の参加を得て、早明浦ダム周辺にて、治山保水機能の向上のため、単一林地を針葉樹・広葉樹の混合林地化する活動（広葉樹の植樹、下草の伐採）を実施。	H29. 6. 23(金)～24(土) 高知県土佐郡大川村 (早明浦ダム周辺)
27	四国中央市 湖水まつり 実行委員会	湖水まつり 水や水源地域に対する感謝の気持ちの醸成と併せて地域の活性化の一助となるよう、上下流域の住民が参加し、ダム建設による移転者を招待して、湖水まつりを実施。	H29. 8. 5(土) 愛媛県四国中央市 (柳瀬ダム周辺)
28	NPO 法人 さめうらプロジェ クト	Sameura Athron2017 高知県、愛媛県ほかから集まった高校生などの若い世代が、水辺の有効活用への関心を高めることを目的として、オリジナルトライアスロン、意見交換会、水上安全講習会を実施。	H29. 8. 20(日) 高知県土佐郡土佐町・ 大川村 (早明浦ダム周辺)
29	次世代のために がんばる会	球磨川上下流交流安全教室、氷川ダム学習会 球磨川上流において、上流と下流の小学生による川の交流安全教室のほか、氷川ダム湖において、かき殻を使用した水質浄化活動やダム湖環境学習会を実施。	H29. 10. 29 (日) ほか 熊本県八代市ほか (氷川ダムほか)

【実施状況（抜粋）】



第12回北海幹線水路ウォーキング2017
(北海土地改良区)



合唱組曲「利根川源流讃歌」第17回歌う会
(合唱組曲「利根川源流讃歌」
発表・実行委員会)



ハッ場ダム上下流交流事業「水の大使2017」
(千葉県上下流交流事業実行委員会)



平成29年度豊川用水上下流交流事業
(豊川総合用水土地改良区)



余呉・姫里子ども交流交歓会
(余呉・姫里子ども交流会実行委員会、
姫里地域青少年育成会)



SameuraAthron2017
(NPO法人さめうらプロジェクト)

国や地方公共団体等での実施状況

内閣官房をはじめとする国の各機関や地方公共団体等においても、水に関する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

① 「水の日」ポスターの掲出

国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるために、ミス日本「水の天使」の宮崎あずさを起用したポスターを約 20,000 枚作成し、関係府省庁、都道府県、市町村、中学校、東京メトロ等に配布、掲出しました。(P37 参照)

② 国土交通省内でのパネル展示

平成 29 年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第 39 回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第 32 回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を中央合同庁舎 3 号館 1 階正面玄関横の展示スペースに展示し、国土交通省職員や来庁者に水の大切さを PR しました (P33 参照)。

③ 地方公共団体等における取り組み

東京においては、水の週間中央行事である「水を考えるつどい」、「水のワークショップ・展示会」のほか、昨年度に引き続き、「子ども霞が関見学デー」にて、「水について考えてみよう！」をテーマに、展示を実施しました。(P33 参照)。

地方公共団体等においても、講演会やシンポジウム、施設見学会、上下流交流会、パネル展示、全日本中学生水の作文コンクールの地方表彰などの活動が実施され、新聞等により報道されました。(P36 参照)

国・地方公共団体等における取り組み例

子ども霞が関見学デー ～水について考えてみよう！～

日時 平成29年8月2日（水）～3日（木）

場所 合同庁舎3号館10階共用大会議室（東京都千代田区霞が関2-1-3）

主催 国土交通省水資源部（巧水（たくみ）スタイル推進チーム協力）

内容 水を大切に使う方法を分かりやすく体験できる「巧水（たくみ）スタイルヒント！ボード」を展示したほか、水の重要性、貴重さなどの理解を深めるパネルの展示を行いました。



巧水スタイルヒント！ボードで
節水について学ぶ子どもたち



石井啓一国土交通大臣とばるちゃん
（（一社）日本パルプ工業会マスコットキャラクター）

※巧水（たくみ）スタイル推進チーム

節水意識の向上、節水型ライフスタイルの定着、節水機器・技術の普及等を目指し、産業界が中心となって、業界団体、学識者、地方自治体等が参画する活動チーム（2011年5月に発足。）

国土交通省内での展示

日時 平成29年8月21日（月）～31日（木）

場所 中央合同庁舎3号館1階正面玄関横展示スペース（東京都千代田区霞が関2-1-3）

内容 平成29年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第39回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第32回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を展示し、国土交通省職員及び来庁者に水の大切さをPRしました。



全日本中学生水の作文コンクール
優秀作品の展示



水資源功績者の功績パネルの展示

【環境省】「見えない水」と「食べ物」のヒミツ！～水を大切にする暮らしを考えよう～

日時 平成29年8月7日（月）

場所 日本科学未来館 7階未来館ホール（東京都江東区青海2-3-6）

主催 環境省

内容 「水の日」関連行事として、水を大切にする暮らしを考えるシンポジウムを開催しました。

前半に、水の大切さについての基調講演、Water Project 参加団体で取り組まれている水資源の保全、食品ロス削減の事例紹介を行い、後半は家庭で出来る食品ロスを減らす取組をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

また、会場施設内では、Water Project やバーチャルウォーター等のパネル展示を行いました。



【農林水産省 関東農政局】

農業用水シンポジウム ～「水」が紡ぐ 豊かな実りと文化を次世代へ～

日時 平成29年8月4日（金）

場所 高崎シティギャラリー コアホール（群馬県高崎市高松町35-1）

主催 農林水産省 関東農政局

人数 229人

内容 農林水産省関東農政局では、毎年「水の日」と「水の週間」に合わせて、農業用水の歴史と役割を振り返り、健全な水循環の一翼を担っている農業用水や農業水利施設を、どのように維持保全していくかを考えるシンポジウムを開催しています。

今年は、水源県である群馬の役割や苦難の水利用等に関する基調講演及び、世界かんがい施設遺産に登録された「長野堰用水」や「雄川堰」をはじめとする群馬県内の歴史的農業用水の関係者等の参加による「先人達の努力に感謝『水』が紡ぐ豊かな実りと文化を次世代へ」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。来場者からは、水の大切さや先人達の努力を再認識したという感想や、農業用水を次世代へ継承するために多様な主体の参加が必要不可欠である等の意見が寄せられました。また、会場では、群馬県に関する「水の恵みカード」の配布もあり、大盛況となりました。

（関東農政局HP）http://www.maff.go.jp/kanto/nouson/sekkei/event/h29_symposium.html



基調講演「水の国ぐんま、一日にして成らず」



水の恵みカードの配布（写真右は、2015年度ミス日本「水の天使」柴田美奈さん）

【秦野市】 秦野名水フェスティバル

日時 平成29年8月2日（水）

場所 秦野市文化会館

主催 秦野市

人数 約1,200人

内容 名水百選選抜総選挙において「おいしさが素晴らしい名水部門」第1位を獲得した「おいしい秦野の水～丹沢の雫」をはじめとする「秦野名水」や、国文化財に登録された「曾屋水道」を多くの人に知ってもらい、名水の里秦野に暮らすことの豊かさに気付いてもらうことと、市民に水の大切さや健全な水循環について関心を寄せ、理解を深めてもらうため、秦野名水フェスティバルを開催しました。

フェスティバルでは、日本ソムリエ協会会長の田崎真也さんを講師とする講演会や、水質の簡易分析体験等をワークショップ形式で行う「夏休み自然教室『学んで遊ぼう！ 秦野名水』」を行ったほか、様々な展示や縁日ブースの設置、秦野市出身の石田晴花さんが監督した映画の特別上映会などを行い、多くの人で賑わいました。



中央：秦野市 くずはの広場「もりりん」
右側：古谷義幸秦野市長
左側：日本ソムリエ協会会長田崎真也さん



講演会の様子



縁日ブースの様子



夏休み自然教室
「学んで遊ぼう！ 秦野名水」の様子

広報の取り組み

水資源の有限性や水の貴重さについての理解と関心を深めるために積極的な広報を行いました。

○「水の日」ポスターの掲出

期間 平成29年7月1日（土）～ 平成29年8月7日（月）

場所 関係府省庁、都道府県、市町村、中学校、東京メトロ（16 駅）等で掲出

内容 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるために、「水の日」ポスター約 20,000 枚を作成、掲出し、「水の日」について周知しました。



水の日ポスター



東京メトロ 霞ヶ関駅

○政府広報・Yahoo!バナー広告の掲載

掲載サイト名 ヤフー

掲載期間 平成29年7月24日(月)～平成29年7月30日(日)

広告文 8月は水の使用量が最も増えます
だから、8月1日は『水の日』です。
水と遊び、水を学ぶイベントはこちら。

内容 国内ニュースの詳細ページ、雑誌カテゴリの国内詳細ページに掲載。バナーは「水の日・水の週間ウェブサイト」(<http://www.mizunohi.jp/>) にリンク。



バナー広告掲載例

○メディアキャラバンの実施

7月24日(月)に、ミス日本「水の天使」の宮崎あずささんと「水の日(8月1日)」関連行事のPRを行うためメディアキャラバンを行い、主要な新聞やスポーツ新聞、ウェブサイト(ニュースサイト)等で取り上げられました。

掲載媒体一覧

【新聞】7月25日 朝日新聞、スポーツニッポン

【WEB】7月24日 朝日新聞デジタル

7月25日 スポニチWEB



取材風景

第41回「水の週間」（平成29年度）都道府県行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭キャンペーン	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕 電光掲示板・立看板
全国	47	6	11	24	8	18	47	9	10	15	15	39	13
北海道	○	◎	☆	◎		◎	◎				☆	◎	
青森県	○		☆				◎					○	○
岩手県	○						◎					○	
宮城県	○					◎	○					○	
秋田県	○						○						
山形県	○						○				☆	○	
福島県	○		○				◎			◎	◎	◎	
茨城県	○			○		○	◎					○	
栃木県	○	◎		☆	○		◎	○	○			○	○
群馬県	○		○	○		○	◎			○		○	
埼玉県	○		☆	◎	◎		◎	☆			◎	◎	
千葉県	○					○	◎	○			○	○	○
東京都	○		○			○	○					○	
神奈川県	◎	◎	☆	☆		○	◎	☆	◎	◎	◎	◎	
新潟県	○						◎			○		○	
富山県	○			○			◎			◎			
石川県	○						◎						
福井県	○			◎		◎	○			☆			
山梨県	○	◎		◎			○	○		○	◎	◎	○
長野県	○	◎				○	○						○
岐阜県	○					◎	◎					○	
静岡県	○			◎		☆	◎	◎					
愛知県	○			◎		○	◎				○	○	
三重県	○			○			○					○	
滋賀県	○						◎			○		○	
京都府	○			☆		○	○		☆			◎	
大阪府	○		☆	☆	☆		◎	☆		☆	☆	◎	☆
兵庫県	○				◎		◎					○	
奈良県	○			◎		◎	◎					○	
和歌山県	○						◎					○	
鳥取県	○		○	☆			○						
島根県	○						◎			☆	◎	◎	
岡山県	○						◎					○	
広島県	○						◎		○			○	
山口県	○						◎					○	
徳島県	○			◎	○		◎		○	○		○	○
香川県	○			◎		○	◎	○	○		◎	◎	
愛媛県	○			☆		◎	◎				◎	◎	◎
高知県	○			☆	◎		○					○	○
福岡県	○			☆	◎		◎		○		○	○	○
佐賀県	○			○		○	◎		○	○		○	
長崎県	○			☆			◎			☆	☆	◎	
熊本県	○		◎		☆		◎					◎	
大分県	○						◎						○
宮崎県	○						◎		○	○		○	○
鹿児島県	○		◎	☆			◎	☆	☆	☆	☆	◎	☆
沖縄県	○	◎				○	◎					○	

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものを配布したことを示す。

「パンフレット」欄の◎は、都道府県等で独自に作成したものを配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第41回水の週間 新聞等報道状況

月日	都道府県	新聞名等	地域	見出し
4月16日	北海道	釧路新聞	地方	「水について考える」テーマに作文募集
4月20日	北海道	稚内プレス	地方	中学生に水の作文募集
4月22日	北海道	苫小牧民報	地方	中学生対象に「水の作文」募集一道一優秀賞受賞作品は全国へ推薦
6月13日	熊本県	熊本日日新聞	地方	中学生水の作文コンクール 県大賞5人決まる
6月14日	愛知県	中日新聞	地方	親子で水源地探検ツアー
6月15日	北海道	北海道新聞	地方	渡辺さん(留萌港南中)水の作文優秀賞 北海道コンクール
6月21日	北海道	北海道新聞	地方	長沼中 池亀さん 竹下さん水の作文最高賞 道コンクール
7月3日	岩手県	岩手日報	地方	街中でアユの手応え 中津川解禁、釣り教室
7月3日	岩手県	盛岡タイムス	地方	待ちましたアユ 中津川で解禁初日 初心者向け教室も
7月7日	岩手県	岩手日報	地方	充実のあゆ釣り教室に感謝
7月9日	香川県	岡山放送	地方	節水チャレンジについて
7月11日	和歌山県	紀伊民報	地方	第39回「全日本中学生水の作文コンクール」県審査における優秀賞
7月16日	岩手県	岩手日日新聞	地方	使用量知り大切さ実感 中学生水の作文県コン 安倍優君(胆沢中2年)佳作に
7月17日	香川県	西日本放送(ラジオ)	地方	節水チャレンジについて
7月19日	神奈川県	OVO		水面を滑る感覚に「ヨットは楽しい」 高校生対象に神奈川県がセーリング教室開催
7月19日	神奈川県	アメーパニュース		水面を滑る感覚に「ヨットは楽しい」 高校生対象に神奈川県がセーリング教室開催
7月19日	神奈川県	yahooニュース		水面を滑る感覚に「ヨットは楽しい」 高校生対象に神奈川県がセーリング教室開催
7月19日	神奈川県	BIGLOBEニュース		水面を滑る感覚に「ヨットは楽しい」 高校生対象に神奈川県がセーリング教室開催
7月19日	神奈川県	楽天infoseekニュース		水面を滑る感覚に「ヨットは楽しい」 高校生対象に神奈川県がセーリング教室開催
7月20日	岩手県	岩手日日新聞	地方	大切さ、それぞれの言葉で 水の作文県コン 花巻北中生4人が入賞
7月20日	岩手県	岩手日日新聞	地方	水資源の大切さ訴え 中学生作文コン 一高附3人が入賞
7月21日	岩手県	盛岡タイムス	地方	震災や日常で大切さ痛感 県中学生水の作文コンクール 洪民中の2人が受賞
7月22日	北海道	北海道新聞	地方	長沼の中3池亀さん 水の作文連続優秀賞
7月23日	岩手県	岩手日報	地方	ダム仕組みに驚き 県企業局見学会 家族連れら理解深める
7月24日	東京都	朝日新聞デジタル		水の天使 水の日PR
7月25日	東京都	朝日新聞	地方	水の天使表敬訪問 水を考えるつどい
7月25日	東京都	スポニチWEB		水の天使来社「水の大切さ伝えたい」
7月25日	東京都	スポーツニッポン	地方	ミス日本・水の天使 宮崎あずささん「水の大切さ伝えていく」
7月26日	山形県	山形新聞	地方	雨の山形、暑さ一服しましたが・・・浴衣姿で打ち水バシャッ！！
7月27日	東京都	日本水道新聞	全国	石井啓一水循環政策担当大臣に聞く 水でつながる 水を感じる
7月27日	東京都	日本水道新聞	全国	水の日 関連行事に参加しよう 水を考えるつどいプログラム
7月27日	東京都	日本下水道新聞	全国	石井啓一水循環政策担当大臣に聞く 水でつながる 水を感じる
7月27日	東京都	日本下水道新聞	全国	水の日 関連行事に参加しよう 水を考えるつどいプログラム
7月27日	愛知県	東愛知新聞	地方	県最優秀賞の中尾さん全国の中央審査も入選
7月27日	和歌山県	テレビ和歌山	地方	第39回「全日本中学生水の作文コンクール」表彰式
7月27日	和歌山県	和歌山放送(ラジオ)	地方	第39回「全日本中学生水の作文コンクール」表彰式
7月28日	埼玉県	テレビ埼玉	地方	第39回「全日本中学生水の作文コンクール」埼玉県地方審査会入賞者表彰式
7月28日	滋賀県	京都新聞	地方	滋賀県中学生水の作文コンクール(最優秀賞、優秀賞2作品の全文掲載)
7月29日	茨城県	茨城新聞	地方	「中学生水の作文県最優秀」に杉山さん
7月29日	群馬県	上毛新聞	地方	ぐんまウォーターフェア開催
7月29日	埼玉県	産経新聞	地方	打ち水で東の間の涼
7月29日	埼玉県	テレビ埼玉	地方	さいたま打ち水大作戦2017
7月29日	愛知県	東愛知新聞	地方	東栄小児童ら万場調整池などを見学
7月29日	愛知県	東日新聞	地方	フィルダムの大きさなど体感
7月30日	徳島県	読売新聞	地方	納涼 所変われば水変わる(とくしま打ち水大作戦2017を掲載)
7月31日	埼玉県	JCOM	地方	さいたま打ち水大作戦2017
7月31日	熊本県	熊本日日新聞	地方	熊本への思い 最優秀の輝き 水の貴重さ 被災で実感

月日	都道府県	新聞名等	地域	見出し
7月31日	熊本県	テレビ熊本	地方	中学生作文コンクール 岡部さん最優秀賞
8月1日	東京都	日刊ゲンダイ	地方	8月1日は水の大切さを考える「水の日」水の供給元 浦山ダム、利根川大堰を訪ねる
8月1日	神奈川県	神奈川新聞	地方	最優秀賞に酒谷さん「水の週間」作文コンクール入賞の9人表彰
8月1日	富山県	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	福井県	日本経済新聞	地方	「水の日」なんか、知らない世界にしよう
8月1日	山梨県	読売新聞	地方	ダムの裏側を見学
8月1日	和歌山県	わかやま新報	地方	第39回「全日本中学生水の作文コンクール」表彰式
8月2日	群馬県	上毛新聞	地方	水資源の大切さ パネルで解説
8月2日	長野県	信濃毎日新聞	地方	佐久で初のフェス水の大切さを考える
8月2日	島根県	山陰中央新報	地方	涼求め園児ら「打ち水」
8月2日	沖縄県	八重山毎日新聞	地方	田淵さん、県優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール中央審査入選 アンパル研究に高評価
8月2日	沖縄県	宮古毎日新聞	地方	中学生水の作文コン 優秀賞に宮古から3人下地さんらを県知事表彰
8月3日	東京都	日本水道新聞	全国	水の日「水を考えるつどい」地域づくりへ”水から”連携
8月3日	東京都	日本水道新聞	全国	“水について考える”契機に 第39回全日本中学生の作文コンクール
8月3日	神奈川県	神奈川新聞	地方	日本一の名水いかが
8月4日	静岡県	静岡新聞(朝刊)	地方	山内、飯塚さん知事賞 水の週間作文コンクール表彰式
8月4日	愛媛県	朝日新聞	地方	「ダム生まれ」のカブトムシ配布 あす 湖水まつり
8月5日	富山県	富山新聞	地方	県中学生水の作文コンクール表彰式
8月5日	長野県	読売新聞	地方	浴衣姿で打ち水
8月5日	長野県	市民タイムス	地方	打ち水 市街地に涼
8月5日	島根県	山陰中央新報	地方	打ち水で涼しく 3商店街でイベント
8月7日	滋賀県	中日新聞	地方	陣山さん(大津)最優秀賞 県中学生水の作文コンクール
8月7日	大阪府	ケーブルテレビJ.COM	地方	「デイリーニュース北河内」で放送
8月7日	大阪府	ケーブルテレビJ.COM	地方	「デイリーニュース北摂内」で放送
8月8日	福島県	福島民報	地方	全国中学生水の作文コンクール 梅津さん(玉川中)ら表彰
8月8日	福島県	福島民友	地方	梅津さんらたたえる 水の作文コンクール
8月10日	岩手県	胆江日日新聞	地方	江刺猿ヶ石土地改良区が受賞 「良質米」安定供給に寄与
8月10日	鳥取県	日本海新聞	地方	水の大切さ 実験を通して学ぶ
8月10日	熊本県	熊本県民テレビ	地方	水の作文「内閣総理大臣賞」を熊本市長に報告
8月11日	新潟県	新潟日報	地方	水の大切さ 再認識 ポスター・作文コンで表彰
8月13日	熊本県	朝日新聞	地方	水の大切さ 震災で学んだ
8月13日	熊本県	朝日新聞デジタル		水の作文コン総理大臣賞 市長に報告
8月14日	宮城県	河北新報	地方	伊達に涼もう 一仙台・打ち水イベントー
8月14日	宮城県	読売新聞	地方	いざ、打ち水じゃ！ 一仙台伊達武将隊がイベントー
8月15日～17日	和歌山県	和歌山放送(ラジオ)	地方	水の作文コンクール優秀賞受賞作品の朗読
8月17日	岩手県	岩手日報	地方	盛岡舟っこ流し 冥福祈る炎 川面照らす
8月17日	岩手県	盛岡タイムス	地方	川面に上がる晩夏の炎 舟っこ流し 盛岡の送り盆行事
8月17日	埼玉県	テレビ埼玉	地方	羽生市 水の飲み比べ
8月18日	群馬県	上毛新聞	地方	水源地 役割知って 都内の親子ら体験会
8月18日	佐賀県	FM佐賀	地方	佐賀平野における水資源開発施設の見学会の募集紹介
8月20日	鹿児島県	南日本新聞	地方	水の作文コン 農水大臣賞
8月22日	山梨県	山梨日日新聞	地方	環境教育評価され功績者表彰受ける 北杜市のNPO
8月22日	熊本県	熊本日日新聞	地方	川と道の守り 役割実感
8月24日	埼玉県	テレビ埼玉	地方	羽生市 水の飲み比べ
8月25日	東京都	日本設備工業新聞	全国	優秀賞などを表彰 水の日・水の週間 中学生作文コンクール
8月25日	滋賀県	毎日新聞	地方	水の作文コンクール表彰式
8月30日	佐賀県	佐賀新聞	地方	地域住民と森林再生 佐賀市親林交流隊「水資源功績者」受賞
9月10日	東京都	月刊ダム日本	全国	水の週間 中央行事を開催(カラー2ページ写真レポート)

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6.26)

(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

(水循環政策本部発足 H26. 7. 1)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会(国土庁会議室) (ポスター、パンフレット) ○第1回水資源に関するシンポジウム (10.25)	・水の週間閣議了解(5.31) ・国連水会議(3.14～25) ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地域の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だな	○ウォーターフェア'78 (銀座 松屋)	・水の週間実行委員会設立 (5.8、11団体) ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地域の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかに私 たちの智恵ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア'79 (船の科学館) ○第1回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか(福岡市)	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア'80 東京 (科学技術館) ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しましよ いのちの水・水とのふれあいでい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア'81 東京 (科学技術館) ○第1回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア (兵庫県)	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア'82 東京 (科学技術館) ○第2回水資源に関するシンポジウム (8.3～5)	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア'83 東京 (科学技術館)	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア'84 東京 (科学技術館)	・水資源局から水資源部へ改組 (国土庁) ・国際河川博覧会(アメリカ・ニュー オリンズ)
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア'85 東京 (科学技術館) ○ウォーターフェア KOBE (神戸市)	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア'86 東京 (科学技術館) ○ウォーターランド(新宿副都心) ○第1回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン(宮ヶ瀬ダム)	・水資源世論調査 ・冬期渇水(西日本)
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア'87 東京 (科学技術館) ○第3回水資源に関するシンポジウム (浩宮殿下による特別講演) (8.4～5)	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画(ウォータープ ラン2000)策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア'88 東京 (科学技術館) ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア'89 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成 2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア'90 東京 (科学技術館)	・人と水のかかわり世論調査 ・首都圏渇水

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備考
平成3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア'91 東京 (東京都庁)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア'92 東京 (東京都庁) ○第4回水資源に関するシンポジウム (10.24)	・環境と開発に関する国連会議
平成5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないから ね	○ウォーターフェア'93 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定(3.22)
平成6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア'94 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成7 (19)		大切に使おう、かけがえのない 「水」	○ウォーターフェア'95 東京 (墨田区役所)	
平成8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、20年。	○ウォーターフェア'96 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア'97 東京 (科学技術館) ○第5回水資源に関するシンポジウム (8.4～5)	
平成10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア'98 東京 (科学技術館)	
平成11 (23)		「当たり前」ではありません！	○ウォーターフェア'99 東京 (科学技術館) ○水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画(ウォータープラン21)策定 ・小渊内閣総理大臣記念式典臨席、展示会視察
平成12 (24)		水の力	○ウォーターフェア2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'01 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足(1.6) ・全国的な渇水
平成14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'02 東京 (新宿パークタワー) ○第6回水資源に関するシンポジウム (8.2～3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'03 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア'04 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア'05 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア'06 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・17年末に全国で大雪、降水量首都圏は は平年並み
平成19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア'07 東京 (科学技術館) ○第7回水資源に関するシンポジウム (8.3～4)	・春から6月にかけて西日本を中心に少 雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇 水、夏に記録的高温
平成20 (32)		水がはぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア'08 東京 ○水を考えるつどい(科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成21 (33)		将来を安全・安心に暮らすた め、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア'09 東京 ○水を考えるつどい(科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的 な豪雨
平成22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア'10 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機 に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい (科学技術館)	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成23年7月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏
平成24 (36)		水の恵みを未来に～健全な水循 環の再生を目指して～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (科学技術館)	・平成24年7月九州北部豪雨 ・利根川水系渇水 ・全国で節電
平成25 (37)		安全・安心な水のために	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム(発明会館)	・全国的な渇水 ・全国で記録的な猛暑、局所的な豪雨

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 26 (38)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(砂防会館) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本法施行及び水循環政策本部設立 ・水循環基本法における「水の日」の法定化 ・平成 26 年 8 月豪雨(広島、京都など) ・御嶽山噴火
平成 27 (39)		みんなで考えよう！水のこと！	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(国連大学) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本計画閣議決定 ・平成 27 年 9 月東北・関東豪雨
平成 28 (40)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(科学技術館) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・皇太子同妃両殿下 水を考えるつどい行啓 ・全国的な湧水
平成 29 (41)		水を探そう	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(イノホール) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・平成 29 年 7 月九州北部豪雨 ・全国的な湧水

※ 全日本中学生水の作文コンクール及び水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和 53 年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和 53 年 5 月 8 日設立総会)

かつて、ケネディは「21 世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないとあってよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるどころとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和 52 年に 8 月 1 日を「水の日」とし、この日から 1 週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げる必要がある。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会の組織

会長 虫明功臣（日本河川協会会長）

平成29年 8月 1日現在

団 体 名	実 行 委 員		運 営 委 員	
全国水土里ネット	専務理事	小林 祐一	所 長	長山 政道
造水促進センター	理事長	山本 和夫	専務理事	大熊 那夫紀
日本治山治水協会	会 長	山口 俊一	専務理事	津元 頼光
日本河川協会	会 長	虫明 功臣	常務理事	萩原 寿夫
日本工業用水協会	会 長	伊藤 稔	事務局長	青柳 伸一
日本水道協会	理事長	吉田 永	調査部長	玉野 井 晃
全国簡易水道協議会	会 長	山崎 一雄	事務局長	若松 五常
日本下水道協会	理事長	岡久 宏史	常務理事	山口 敬義
日本ダム協会	会 長	宮本 洋一	専務理事	川崎 正彦
利根川・荒川水源地域対策基金	理事長	藤井 友竝	事務局長	明戸 邦浩
	常務理事	渡邊 和足		
日本水フォーラム	代表理事	竹村 公太郎	代表理事	竹村 公太郎
土木学会	会 長	大石 久和	専務理事	塚田 幸広
農業農村工学会	会 長	久保 成隆	専務理事	小泉 健
水資源機構	理事長	甲村 謙友	総務部長	四日市 正俊
	理 事	◎ 牧 慎太郎		

団 体 名	実行委員	運 営 委 員	
国土交通省（水資源部）	—	大臣官房 審議官 水資源政策課長 水資源計画課長 企画専門官 専門調査官	○山本 景一 今長 岳志 岡積 敏雄 柳井 和則 長谷川 聡
東京都（都市整備局）	—	局 長 都市づくり政策部長 都市づくり政策部 水資源・建設副産物担当課長	邊見 隆士 久保田 浩二 鴫田 正明

◎運営委員長 ○運営副委員長

第41回「水の週間」ポスター



水を探そう

mizunohi.jp

水の日・水の週間関連行事

- 1 水を考えるつどい(8月1日開催)
作文コンクール表彰式や専門家・著名人による講演など。
- 2 水のワークショップ・展示会
小学生の親子を対象としたイベント。夏休みの宿題にも役立つ。
- 3 水とのふれあいフォトコンテスト
様々な「水」をテーマに、ソーシャルネットワークからも参加できます。
- 4 全日本中学生 水の作文コンクール
次代を担う中学生を対象に「水について考える」をテーマに実施。
- 5 水の週間一斉打ち水大作戦
賛同いただける団体によって、日時指定の打ち水を実施。

この他、水資源法に基づき各都道府県等が実施する水の週間関連行事などが行われます。

第41回
8/1は水の日
8/1~7は水の週間

健全な水循環により、水の恵みを楽しむ社会を目指して。

主催：水循環政策本部、東京都、水の週間実行委員会ほか
後援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省ほか

「水の日・水の週間」に関する行事等の情報は、各都道府県ホームページ、国土交通省ホームページ、国土交通省ホームページ「水の日・水の週間」ページからご覧いただけます。

水の日の週間 検索

2017年度は日本「水の週間」を掲げます。

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心 11-2

独立行政法人水資源機構 総務部広報課内

TEL 048-600-6513 FAX 048-600-6510